

徳本上人名号碑
とくほんしょうにんみょうごうひ

この石碑は有田川町小島にあり、国道42号小島分岐点から400m程湯浅町方面に進んだ所にあります。昭和41年に、交通安全や世界平和などを祈願する目的で建立されたのですが、石碑の四面には「南無阿弥陀仏 徳本」と刻まれています。

石碑に刻まれた徳本とは、江戸時代に活躍した念仏行者である徳本上人のことです。徳本上人（一七五八年から一八一八年）は、現在の和歌山県日高町に生まれ、幼少の頃から念仏を唱え続け、27歳で出家した後は、想像を絶する荒修行を続けながら、分かりやすい説法で浄土宗を広めました。40歳を過ぎたころからは、布教のために日本各地を行脚し、身分や性別を問わずに救済の手を差し伸べたことから、帰依者は皇族・貴族・諸大名から一般民衆に及んでいます。

また、有田地方とも関わりが深く、有田川町田口と有田市宮原町にまたがる岩室山いわむろにおいて、約7年間にわたって隠棲し修行しました。岩室山の山頂には中世の山城があり、かつて戦場となった場所であることから、戦死

者への供養のためにこの場所を選んだと考えられています。岩室山での修行は、千日間にわたって俗界と絶縁し、昼夜不断の念仏修行であったとされます。やがて徳本上人が修行していることが知れ渡り、岩室山の麓には多くの人々が集まるようになったと伝えられています。

石碑に刻まれた「南無阿弥陀仏」の文字は、丸みをおび、終筆の部分が跳ね上がった独特の字体が特徴で、徳本文字と呼ばれています。徳本上人は、人々に名号（仏・菩薩ぼさつの名前）を与え、この徳本文字を刻んだ名号碑が全国各地に建立されました。その数は1,000基以上あると言われており、徳本上人の活動範囲の広さと民衆信仰の深さがうかがわれます。

